

第5回バス共創プラットフォーム 会議録（要旨）

1 日時

2025年（令和7年）6月10日（火）15：00～17：00

2 場所

iti SETOUCHI tovio 福山市西町1丁目1-1

3 出席者

(1) 委員（15名）

神田佑亮委員、鈴木春菜委員、宇田雅英委員、神原昌弘委員、石川 亮委員、
吉本伸久委員、富田直也委員、久保辰己委員、小野裕之委員、後藤裕正委員、
橋本敬治委員、今井 宏委員、柴田益良委員（代理）、行迫孝治委員、難波和通委員

(2) 事務局（6名）

(3) 傍聴者（7名）

(4) 随行者（1名）

4 会議の成立

委員18名中、代理出席を含め15名出席で、委員の過半数が出席しているため、バス共創プラットフォーム設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立。

5 内容

(1) 説明内容

ア 路線バス運賃無料ウィーク実施結果について

イ 今年度の取組について

（ア）ニーズにあった運行便数の増便や新路線（幹線）などの実証実験

（イ）ベスト運動取組強化（案）

（ウ）乗務員確保に向けた取組

(2) 意見交換

(3) その他

ア 毎土夜店開催日の臨時バス運行について（株式会社中国バス）

6 資料

- ・次第
- ・委員名簿
- ・第5回バス共創プラットフォーム資料
- ・別紙1、2 運賃無料ウィーク時の利用者数が多かった路線図
- ・毎土夜店開催日の臨時バス運行について

7 協議内容

(1) 開会

(2) 説明内容

ア 路線バス運賃無料ウィーク実施結果について

イ 今年度の取組について

- (ア) ニーズにあった運行便数の増便や新路線（幹線）などの実証実験
- (イ) ベスト運動取組強化（案）
- (ウ) 乗務員確保に向けた取組

- ・ 事務局から第5回バス共創プラットフォーム資料の説明を行った。

(3) 意見交換

ア 路線バス運賃無料ウィーク実施結果について

- ・ 周知期間が短かったため、十分な周知ができなかったが約1.6倍の利用者数が増加したことは評価できる。
- ・ 「大谷台線」「府中線」「卸町線」は、もともと便数が多い路線であり、サービス水準が高い路線の利用が多かった。大谷台線は、団地から福山駅の利用だけでなく、団地内での利用も多かった印象である。府中線は、土曜日に積み残しも発生する程、利用が多かった。卸町線は、運賃無料ウィーク期間中に学校が冬休みに入ったこともあり、福山駅から映画館（福山コロナワールド）の利用が多かった印象である。
- ・ 「鞆線」の利用者数は多かったが、観光のオフシーズンであったこともあり、観光客でなく、福山市民の方が集団で利用していた印象である。「尾道線」は、JRと並行している路線であるが、利用が多かった。
- ・ 福山市民病院を經由する「福山市民病院線」「中国中央病院線」の利用者数が多かった。また、運賃が高い路線は、得をした気持ちになるためか、利用が多かった印象である。
- ・ 「山野田原線」は、加茂町住民を中心に利用が多かった。
- ・ 運賃無料ウィークで路線バスに乗る「きっかけ」づくりはできたが、実施後に大きく利用者数は増えてはならず、微増程度の印象である。
- ・ 運賃無料ウィーク実施前と実施後であまり変化が見られないようであれば、継続して習慣化しないと定着は難しい。
- ・ 継続して実施するのであれば、利用者の属性や乗降データなど、精緻なデータをとれるよう調整する必要がある。

イ 今年度の取組について

(ア) ニーズにあった運行便数の増便や新路線（幹線）などの実証実験

- ・ 近年は先に計画を立てるのではなく、実験的に実施して検証することを繰り返すことで事業をつくっていく流れである。昨年度の運賃無料ウィークの経験や課題を踏まえて、今年度の実証実験に取り組んでいきたい。
- ・ 乗務員確保が課題であり、実施できる方法を検討する必要がある。
- ・ 夜間の増便を希望する声は多く聞いている。乗務員確保の課題はあるが、実験的にやる意味は十分にある。
- ・ 増便して利用者が分散するだけではいけない。利用者総数を増やす取組が必要。
- ・ 単に増便するだけでなく、必要な情報を提供しないと利用してもらえないため、マネジメントが必要。

- ・ イベントに合わせて路線バスの利用を促すなど、福山の魅力と路線バスをどのように連携させるかという視点が必要。
- ・ イベント主催者も交通は課題と認識している。イベントが行われる施設や人が集まる拠点との連携を強化することで、イベントと路線バスの連携方法が見えてくるのではないか。
- ・ 出発地や目的地の施設との連携も重要。例えば、福山市民病院内での時刻表の表示など、病院内でのサービスと連携できるとよい。
- ・ 今回の実験のターゲットは誰なのかを正確に設定することが重要。ターゲットにどのように周知すればダイレクトに情報が届くのかを検討する必要がある。
- ・ Googleマップを利用すれば、公共交通の情報は調べることは可能だが周知されていない。検索方法を市民に広く周知することも必要。
- ・ 情報発信の方法は、今回の実験に限らず、他の取組でも応用が可能。使えるツール、メディアはプラットフォーム内で共有するとよい。
- ・ 大谷台線は基本30分間隔で運行しているが、1時間程度間隔がある時間帯もある。運賃無料ウィークでは、その時間帯に利用が集中していたため、増便することで利用が見込めると考えられる。
- ・ 夜間の時間帯の増便案（21時台、22時台）は、本当にニーズに対応している時間帯なのか疑問がある。23時台のニーズもあると思われ、もっと細かいニーズの把握も必要。
- ・ 単独の路線の利用促進でなく、全体の地域公共交通ネットワークをどうするのかを検討することも必要。
- ・ 住民意識が定着するまで粘り強く取組を継続していくことが重要。

(イ) ベスト運動取組強化（案）

- ・ ベスト運動は会員数の増加が課題。企業とバス会社の連携や企業へのメリット付与を検討して取り組むことが必要。
- ・ 路線バスの利用促進にもつながる取組なので、福山都市圏交通円滑化総合計画推進委員会（ベスト運動事務局）と連携して取り組むことが必要。

(ウ) 乗務員確保に向けた取組

- ・ 広島県もバス協会と連携して乗務員確保に対する制度を設置している。関連する内容は、合わせて情報発信を行うとよい。
- ・ 会社によって待遇面や条件が異なるため、情報を一元化して分かりやすくすることも必要。
- ・ 既存の乗務員が辞めないための対策も必要。賃金のベースアップやカスタマーハラスメントへの対策など、労働環境に関する情報発信も必要。

(4) その他

ア 毎土夜店開催日の臨時バス運行について（株式会社中国バス）

- ・ 福山毎土夜店に合わせて「川口線」と「大谷台線」で臨時バスを運行する。お酒を飲む人も多く来場されると思うので、この機会に路線バスを利用してもらい、通常時の利用にも繋げていきたい。